

# 平成29年度学校自己評価システムシート (県立川越特別支援学校川越たかしな分校)

目指す学校像	「自分の良さを生かし、社会の中で生き生きと活躍できる人材を育成する学校」
--------	--------------------------------------

重点目標	1 社会自立に向けた学習活動と特別活動を充実させる。 2 地域や高校との関係を大切にしたい開かれた学校づくりを推進する。 3 地域と連携した支援体制の確立と希望と実態に即した進路を実現させる。 4 集団生活のルール・マナーを守り、幅広いコミュニケーションの力を身につけて社会で力強く生きていく力を育てる
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 9名 生徒 6名 事務局(教職員) 7名
-----	----------------------------------

学校自己評価					学校関係者評価	
年度目標					年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況( )は昨年度	達成度 次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着を図るために反復学習が必要である。繰り返し指導や躰き指導等の補講学習を計画的に行う。</li> <li>社会自立に向け、体験学習の充実を図る必要がある。</li> </ul>	基礎学力の定着に向け繰り返し学習と反復学習を取り入れると共に長期休業中の学習の機会を確保する。	①支援プランをもとに、学習指導や個別指導の工夫や指導方法に教科間連携を図り取り組む。 ②校外行事・校内行事を通して体験学習を充実させる	①学習の理解度を把握しながら補講を施す。 ②体験学習等を通して社会性や自立性を身につけられたか。	①定期考査や小テストなどから理解度を把握し、補講等が必要な生徒には補講等をばどこした。また検定試験等の実施に伴い理解度の定着を図っている。英語検定・漢字検定・ビジネス検定等昨年度より合格率が上昇している。 ②特体連陸上大会分校の部優勝	B 来年度も引き続き生徒の理解度を高めさせ、達成感を味合わせるとともに、向上心を助長させていく。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動を通して個々の可能性を引き出すことが必要である。多くのことを体験させる。</li> </ul>	特別活動を通してチャレンジ精神を育成し個々の体力・能力を育成する	①部活動充実のため校外活動に積極的に参加し、交流を深めるとともに保護者の理解・協力を求める	①部活動の充実及び校外の活動に積極的に参加できたか。 ②大会等に参加して満足度は高められたか。	①全国盲学校フローバレーボール大会補助役員として積極的に参加して活躍した ・サッカー大会においては女子部3位、 ・PK合戦の部で2位を獲得 ②笑顔つなぐえひめ大会卓球大会2位 日本生命女子卓球部と親善交流実施	A 個々の能力を最大限に引き伸ばして上位優勝を目指させる。他校との練習試合の機会を増やす
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>分校とは何かを中学校や地域に広めるために、学校説明会や体験入学・入試説明会を計画的に進める必要がある。</li> <li>HP・広報誌・学校案内等による情報発信の強化をする。</li> </ul>	分校をPRするリーフレットの工夫やHPはみやすいか	①学校公開や体験入学、入試説明会の参加数は増えたか ②HPのこまめな更新と学校案内等の情報誌の活用を充実させる	①②分校の魅力を外に積極的に発信し、分校教育活動の理解が地域や中学校に浸透したか。	①学校説明会を年4回実施。昨年度より全体で20人増、地域の中学校に浸透。入学希望倍率1.93(昨年1.35) ②HPの更新は細目に行う事が出来、情報をリアルに発信し情報を提供できるようになった。	A 今後の本校の教育活動を地域に発信できるようHPの活用を図る学校便りの発行を検討
	<ul style="list-style-type: none"> <li>川越初雁高校との合同開催行事の回数を増やし交流を深める必要がある。</li> </ul>	川越初雁高校との生徒・教員交流を活性化させる	①合同行事と部活動交流、生徒会交流を活性化させる ②ビルメンテナンス授業等合同授業を積極的に行う	①②川越初雁高校との生徒・教員交流が活性化し、ノーマライゼーション教育の推進が広まったか。	①川越初雁高校との職員研修会を2回実施 ・分校・併設置校の教頭会を実施 ・生徒会と合同のクリスマス作り実施 ②ビルメンテナンス等の合同授業はできなかった	B 合同研修会等を実施することで緊密さを深められた。今後も継続していく。授業交流との在り方は検討する
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者のニーズに沿った進路指導を一層進める必要がある。企業開拓や支援センターの役割等の共有理解を深めていく必要がある。</li> <li>卒業後の支援体制についても企業・関係機関・保護者との連携が取れるようにする必要がある。</li> </ul>	組織的な進路指導と担任・担任外との共通理解をもって進路指導にあたる	①進路の手引きを有効活用しつつ、保護者会等でも情報提供をして保護者・全教員の共通理解のもと進める ②企業、支援機関と連携を強化し、川越市外の地区の新規の企業開拓を図る	①進路の手引きが保護者・教員間で共有できたか。 ②企業、支援機関との連携は深められたか。 ③実りある現場実習と進路実現ができたか。	①進路の手引きの見直しを図りわかりやすく活用しやすい物に工夫試行中である。 ②企業や支援機関等には学校公開を2回実施 ③保護者や生徒のニーズ・生徒の適正にあった実習先を新規19事業を開拓した。 ・各学年三者面談年2回実施し連携を強化	A 組織的に同じ見解で対応できるようにした。常に生徒や保護者のニーズに合う企業を模索中である
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉遣いやマナー、問題行動など更なる生徒の規範意識の向上を図る必要がある。</li> <li>こころの健康についてカウンセラー・教員・保護者との連携を強化し、教育相談体制の充実を図る必要がある。</li> <li>災害時の安全指導と校内安全計画の意識を充実させる必要がある。</li> </ul>	規律ある生活態度と豊かな心の育成を図る。言葉の使い方による友人関係の構築  交通安全マナーや通学路の再検討を行う	①挨拶、遅刻、身だしなみ、私語の指導を全教員の共通理解のもと組織的に行う ②いじめ防止アンケートや人権教育の研究授業、SCによる生徒個別のカウンセリングを充実させる ③保健指導、相談活動の充実を図り、活動内容を保護者へ周知し連携を強化する ①避難訓練や通学路の安全点検を行う	①挨拶・身だしなみ、私語は減少したか。 ②いじめ問題、人権教育などSCとの連携による生徒支援ができたか ③保健指導・相談体制の確立が保護者へ周知され、連携がふかまったか。 ①日頃から災害意識をもって対応・安全点検ができたか	①身だしなみは良好であるが、挨拶はまだまだである。今後も指導を継続していく ②いじめ問題・人権問題はあとが立たない。ラインの使い方やコミュニケーションの取り方にまだ課題が残った。 ③保健指導や教育コーディネーター、SCの役割は大きく寄与した。 3年2月蘇生法実施命の大切を学ぶ。 ①安全点検は新通学路等を含め検討した。 ・職業授業において帽子着用の徹底を図った ・授業安全配慮事項のマニュアル化を進めた	B 身だしなみ、挨拶は積極的に奨励する。ラインの使い方等については、保護者を含め外部講師による講演会を実施できるようにする。特別支援教育コーディネーター、sc、保護者との連携は今後も密にしていく必要がある。  A

実施日	平成30年2月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	体験活動等をたくさん取り入れた活動を今後も活用してほしい。「狭い」とか「できない」ということではなく独創性や柔軟性が大事。今後も工夫をこらして取り組んでほしいです。  HPはこまめにチェックさせていただいていますが、一部、生徒にモザイクがかかってしまっているのが残念と感じていますが、改善は難しいのかという要望がありました。生徒保護の立場から難しいものもあります。情報の収集や発信が出来ているから学校公開の人数が増え入学選考の倍率が高くなっているのは良い事だと思う。今までの学校運営の在り方が評価されているので自信にしてよい社会の中で自分の考えを発表する経験は大切だと思いますがそのような機会はあるのか。ビルメンテナンスで清掃に取り組んでいた生徒が的確な言葉で案内してくれました。そのような力がまさに必要になると感じます。  ラインや言葉の暴力などは、学校だけでなく地域とも連携を図ることも大切だと思いますし「しない・させない・許さない」などの合言葉を基に、計画的に取り組んでいけるといいと思います。

